

II 西原 F 遺跡 2

例 言

- 本編は熊本大学文学部考古学研究室による熊本県阿蘇郡西原村大字河原字大野に所在する西原 F 遺跡の第 2 次発掘調査の概要報告である。
- 調査は1997年 8 月 7 日から 8 月12日までの合計 6 日間にわたっておこなわれた。
- 石材の鑑定は元熊本大学理学部教授の松本幡郎氏に御協力いただいた。
- 本編の執筆は藤本圭司がおこなった。実測は石器を藤本が、土器を富永明子、山口大介がおこなった。製図は石器を藤本が、土器を富永がおこなった。
- 調査及び整理参加者は以下のとおりである。
 - 甲元眞之 木下尚子 小畑弘己 藏富士寛 (以上教官)
 - 大坪志子 (熊本大学埋蔵文化財調査室) 今村佳子 (九州大学大学院博士課程)
 - 若杉竜太 (大学院 2 年次生) 美浦雄二 若杉あずさ (以上大学院 1 年次生)
 - 尾上博一 (研究生) 上田健太郎 藤江望 藤木聡 (以上学部 4 年次生)
 - 江島賢一 小倉卓 小路岳彦 林季美子 藤本圭司 (以上学部 3 年次生)
 - 緒方智子 新里亮人 富永明子 中川毅人 馬場達也 峯崎麻帆 山口大介
(以上学部 2 年次生) 中川猛 (山口大学学部 4 年次生) 林充彦 (山口大学学部 3 年次生)
- 調査および整理については、以下の諸氏・機関に御協力・御指導いただいた。(五十音順、敬称略)
 - 阿南亨 飯田考俊 稲津暢洋 岩谷史記 岡本真也 木崎康弘 小谷桂太郎 小南裕一
 - 坂田和弘 杉原敏之 高見淳 田中康雄 富永直樹 原田範昭 宮崎敬士 村崎孝宏
 - 吉留秀敏 矢野祐介 山下実 山下宗親
 - 西原村教育委員会 家畜改良事業団熊本種雄牛センター

本文目次

一	遺跡の位置と環境	1
二	調査の概要	2
	1. 調査経過	2
	2. 基本層序	4
	3. 出土状況	6
三	遺物出土遺物	9
	1. 土器	9
	2. 石器	9
四	まとめ	15

挿図目次

第1図	周辺遺跡分布図
第2図	遺跡周辺地形測量図
第3図	第1次調査出土石器図
第4図	C-1グリッド西壁断面図
第5図	K-1グリッド西壁断面図
第6図	C-1・2グリッドⅦ層遺物出土状況図
第7図	F-5・6、G-4～6、H-4・5グリッドⅣ-a層遺物出土状況図
第8図	出土・採集土器実測図
第9図	出土・採集石器実測図（1）
第10図	出土・採集石器実測図（2）

表目次

第1表	周辺遺跡出土・採集遺物一覧表
第2表	各層石材構成表
第3表	各グリッド掘り下げ深度および遺物出土状況表
第4表	出土・採集土器観察表
第5表	出土・採集石器観察表

図版目次

図版1	上 遺跡遠景（東より）	図版2	上 ナイフ形石器出土状況
	中 遺跡近景（南西より）		中 台形様石器出土状況
	下 F-5グリッド遺物出土状況（西より）		下 C-1・2グリッド北壁断面
図版3	上 F、G、H-4～6グリッド完掘状況（東より）		
	中 出土・採集土器		
	下 出土・採集石器		

一 遺跡の位置と環境 (第1図)

西原 F 遺跡は熊本県阿蘇郡西原村大字河原字大野に所在する。本遺跡は阿蘇外輪山南西部に位置する高畑山 (標高796m) から西にのびるなだらかな尾根上に立地する。現在、遺跡周辺は牧草地として利用されて、調査区周辺は削平のため平坦になっているが、削平以前はより傾斜のはげしい地形であったと思われる⁽¹⁾。周辺には小沢が点在し、遺跡を挟むように南北の谷底を河川が西走する。遺跡の広がりには採集遺物の分布からおよそ500m²程であると思われる。

地理的位置

当遺跡周辺には西原 A 遺跡、西原 B 遺跡などの旧石器時代遺跡が点在する。これらの遺跡は総じて眺望のきく高地に位置し、遺跡の規模は小さい。西原公共育成牧場、吉無田高原周辺の踏査により確認されている遺物は旧石器時代と縄文時代早期の遺物が多く、若干の縄文時代前期以降の遺物がある。西原 F 遺跡もこれらの遺跡と同じ様相を呈す。

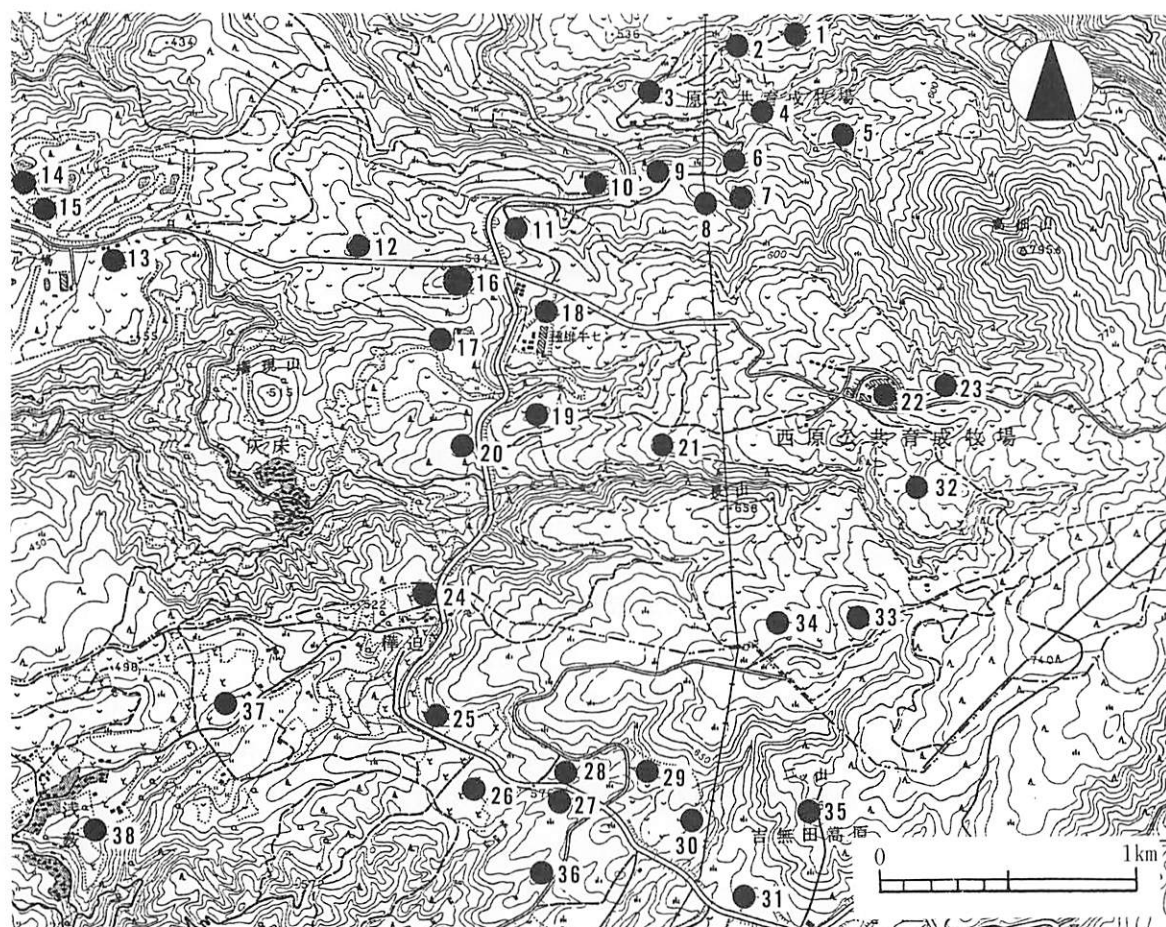
歴史的位置

これら遺跡の立地する南阿蘇は安山岩基盤をなし⁽²⁾、ここで産出する安山岩は旧石器から縄文時代を通じて当地で頻りに石器原材として用いられている。また、阿蘇火山起源の噴出物中にみられる親指大の黒曜石も、当地における石材として利用されている。

石材環境

註 (1) 福岡市教育委員会吉留秀敏氏の御教示による。

(2) 『熊本県の地理』日本地理集成Ⅲ 光文館、1964



1河原A 2河原B 3河原C 4河原D 5河原E 6西原A 7河原F 8河原G 9河原H 10西原B 11河原J 12河原K 13河原L 14谷頭 15藤水 16西原F
17浜ノ谷入口 18河原M 19河原N 20河原I 21河原O 22吉無田O 23吉無田A 24吉無田B 25吉無田C 26吉無田D 27吉無田E 28吉無田F
29吉無田G 30吉無田H 31吉無田I 32吉無田J 33吉無田K 34吉無田L 35吉無田M 36吉無田N 37御池原 38浅ノ藪

第1図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	遺物	番号	遺跡名	遺物
1	河原 A	弥 P	20	河原 I	Kn F
2	河原 B	石鏃 F	21	河原 O	旧石器*
3	河原 C	C F	22	吉無田 O	旧石器～縄文*
4	河原 D	Kn F	23	吉無田 A	F 縄 P
5	河原 E	F	24	吉無田 B	TP SP Sc 石鏃 縄 P
6	西原 A	MC Kn TP Tr 縄 P	25	吉無田 C	C
7	河原 F	Kn Ax 縄 P	26	吉無田 D	縄 P
8	河原 G	旧石器*	27	吉無田 E	MB 縄 P
9	河原 H	旧石器*	28	吉無田 F	MB 縄 P
10	西原 B	MC MB Kn TP SP	29	吉無田 G	F
11	河原 J	F	30	吉無田 H	F
12	河原 K	Sc	31	吉無田 I	F
13	河原 L	MC MB	32	吉無田 J	F
14	谷頭	MC TP 縄 P	33	吉無田 K	旧石器*
15	藤水	縄 P 石鏃	34	吉無田 L	旧石器*
16	西原 F	Kn TP Tr MC MB Sc 石鏃 縄 P	35	吉無田 M	F
17	浜ノ谷入口	*	36	吉無田 N	石匙 F 縄 P
18	河原 M	縄文中期*	37	御池原	縄 P 弥 P
19	河原 N	石鏃 Sc F 縄 P	38	浅ノ藪	縄 P 土師器 須恵器

Kn; ナイフ形石器 Tr; 台形石器 TP; 三稜尖頭器 SP; 剥片尖頭器 MB; 細石刃 MC; 細石核 Ax; 石斧
Sc; スクレイパー C; 石核 F; 剥片 縄 P; 縄文土器 弥 P; 弥生土器

*印のものは、熊本県文化課および西原村教育委員会の遺物台帳に記載のある遺跡であるが、遺物は不明である。

第1表 周辺遺跡出土・採集遺物一覧表

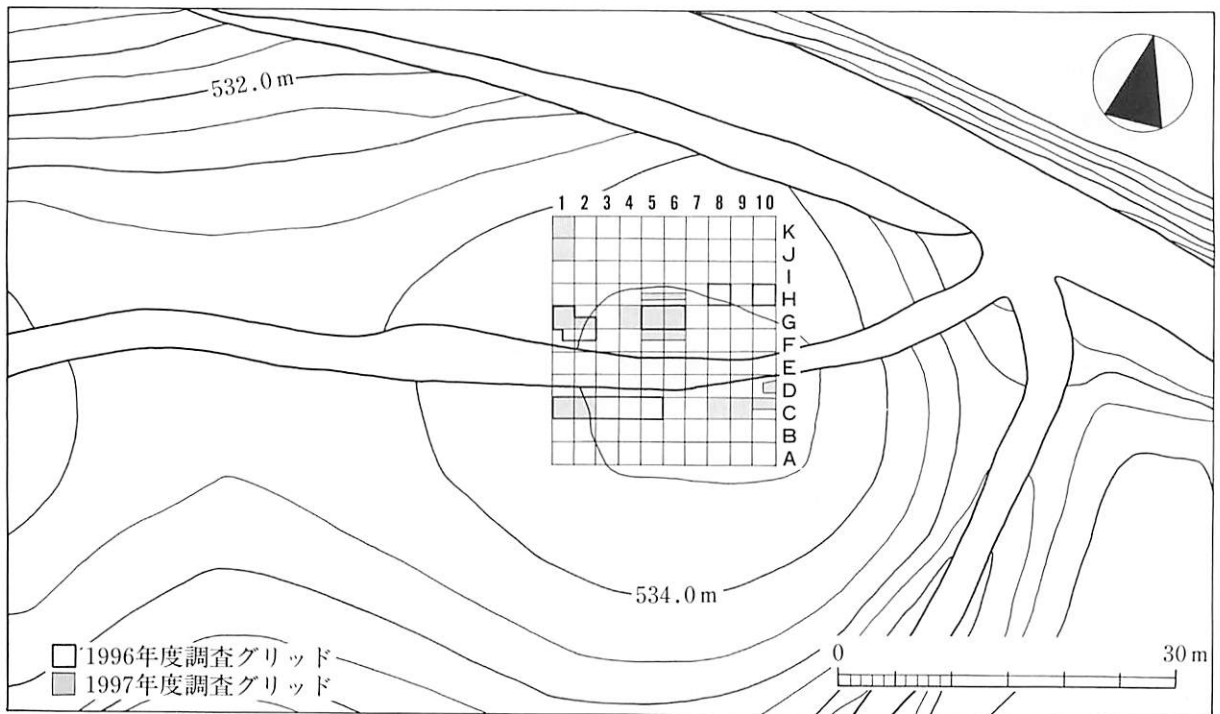
二 調査の概要

1. 調査経過 (第2・3図)

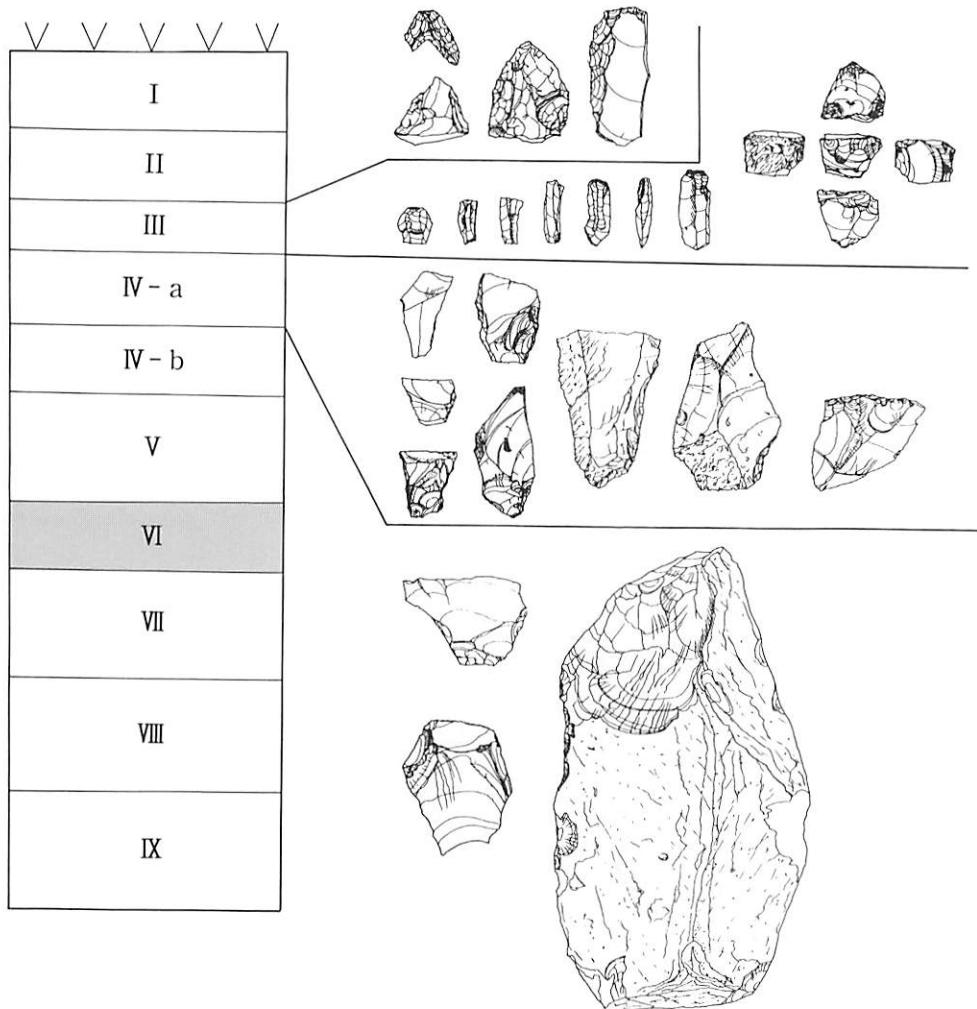
第1次調査 第1次調査では9枚の堆積層を確認し、そのうちII層に縄文時代早期文化層、III層に細石刃文化層、IV-a層の上層に百花台型台形石器文化層、下層にナイフ形石器文化層、IV-b層に台形様石器文化層を確認した。

グリッド設定 第1次調査では遺跡の層厚が薄く文化層の確認に困難を極めたため、今回は前回調査区に設定したA-H区に加え、新たに層の堆積が厚いと思われる北側斜面部にI、J、K区を設定し、J-1、K-1グリッドを調査した。ここでは始良丹沢火山灰(AT)層上位の縄文時代、旧石器時代文化層の枚数把握とその面的な広がりについての確認をおこなった。C-8~10、D-10グリッドでは主に縄文時代の文化層の堆積状況を確認することを目的とした。また前回調査によって確認された類百花台型台形石器の広がりを確認するために、第1次調査グリッドであるG-4・5グリッドに加え、G-6、H-4~6、F-4~6グリッドまで調査範囲を拡大した。C-1、G-1・2グリッドにおいては、AT層下位の文化層の存否確認のため第1次調査に引き続き深掘りをおこない、C-1グリッドVII層より石器が出土したため、後にC-2グリッドまで調査範囲を拡大した。

調査面積 今回の調査面積は54m²である。



第2図 遺跡周辺地形測量図



第3図 第1次調査出土石器図

2. 基本層序 (第4・5図 図版2下)

前回層序はIX層までを確認していたが、今回さらに掘り下げを行った結果、X層までを確認することができた。また、前回V層、VII層としていた層は今回それぞれ色調の違いによりV-a、V-b、VII-a、VII-bと細分した。以下に記す層厚はC-1グリッドにおけるものであり、J-1、K-1グリッドにおいては各層がさらに厚さを増しながら北に傾斜して堆積している。

傾斜堆積

文化層の仮称

今回確認した文化層は、今後の調査により統合される可能性を残している。よって、ここでは文化層を仮に第1～6文化層と記す。

I層：黒褐色土層 (7.5YR2/2) 表土層。アカホヤ火山灰 (A h) がブロック状に含まれており、土にしまりがなく粒子が細かい。縄文時代早期以降の遺物がみられる。

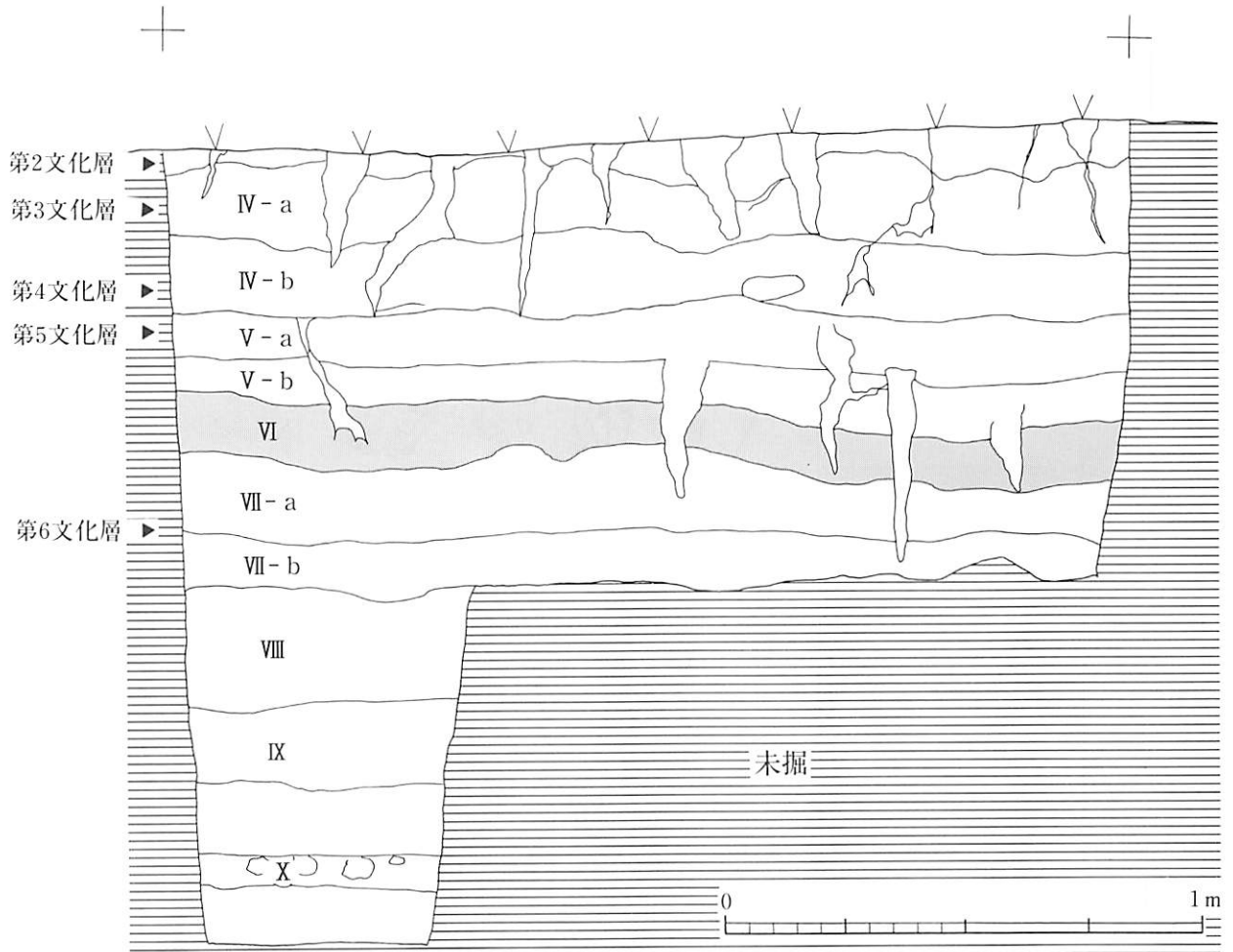
II層：黒褐色土層 (7.5YR3/2) 粒子は細かく、粘性がある。縄文時代早期後半の遺物が含まれる。第1文化層。

III層：にぶい黄褐色土層 (10YR2/3) 固くしまり、クラックがみられる。II層とIV層の漸移層であり、10～15cmの厚さをもつ。細石刃石器群を含む。第2文化層。

IV-a層：褐色土層 (10YR4/4) 固くしまっており、クラックが著しく発達する。12～15cmの厚さをもつ。台形石器群、ナイフ形石器を含む。第3文化層。

S — 534.50 m

534.50 m — N



第4図 C-1グリッド西壁断面図

IV-b層：褐色土層 (10YR4/6) IV-a層に比べて色調は明るい。10~15cmの厚さをもつ。ナイフ形石器、台形様石器を含む。第4文化層。

V-a層：暗褐色土層 (10YR3/4) 粘性があり、固くしまる。クラックが入る。ナイフ形石器を含む。第5文化層。

V-b層：黒褐色土層 (10YR2/2) V-a層よりも粘性があり、固くしまる。V-a層に比べ色調が暗い。

VI層：暗褐色土層 (7.5YR3/3) 白い火山ガラス (AT) を多く含む。

VII-a層：褐色土層 (10YR4/6) 粘性があり、5~10mmの軟質の小礫を含む。台形様石器を含む。第6文化層。

VII-b層：褐色土層 (7.5YR4/4) 固くしまる。第6文化層。

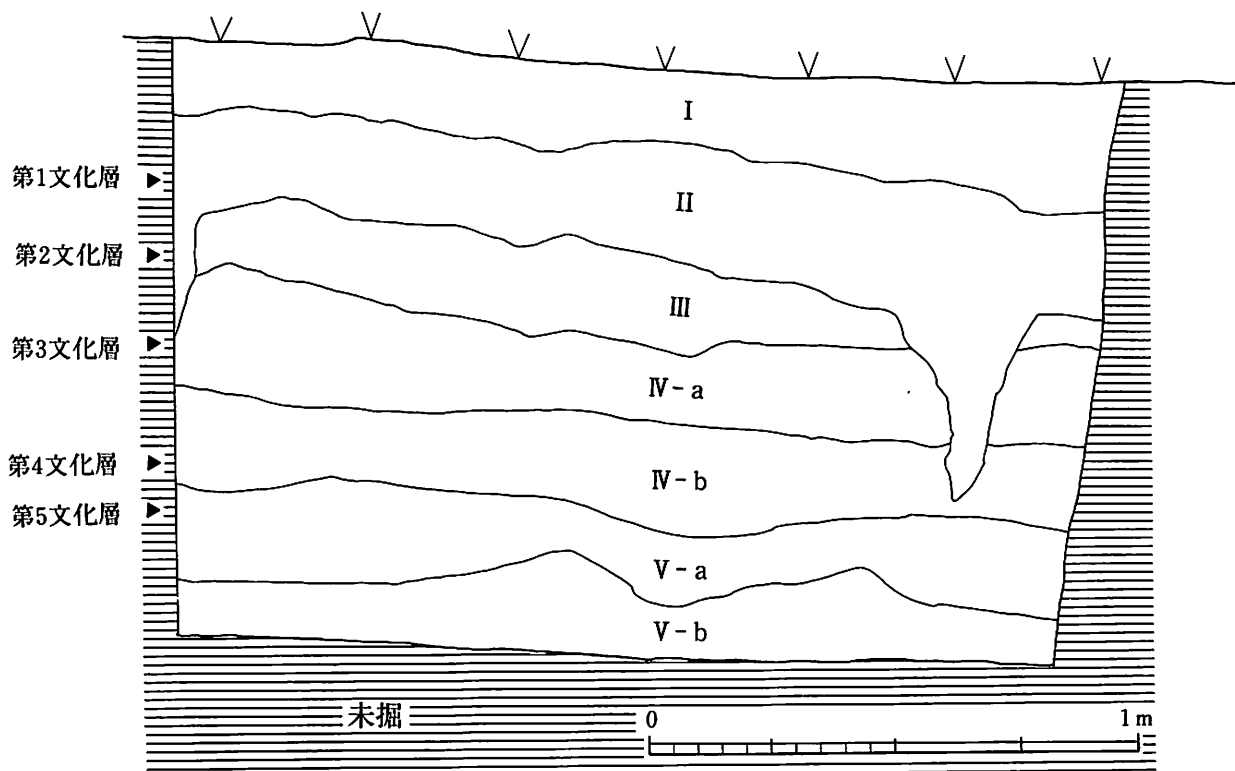
VIII層：褐色土層 (10YR4/6) 1~5mmの軟質の小礫を含む。20~25cmの厚さをもつ。

IX層：褐色土層 (10YR4/6) 粘性がなく、粒子が粗い。30~35cmの厚さをもつ。

X層：褐色土層 (10YR4/6) 中間に礫をはさむ。下方ではやや赤味を増す。

S—— 534.50 m

534.50 m —— N



第5図 K-1グリッド西壁断面図

3. 遺物出土状況 (第6・7図 第2・3表 図版1下)

今回の調査で出土した遺物は計279点で、その内訳は土器58点、石器221点である。

土器出土状況

土器は縄文時代のもので早期の押型文土器、塞ノ神式土器が多い。土器はI層からIV層にわたって出土するが、I層とII層の一部のものは削平により原位置を留めていないものと思われる。III層とIV層はクラックが発達しており、そこから出土する土器はそのクラックに落ち込んだものである。明らかに原位置を留めているのは第1文化層 (II層) 出土の一部に限られる。

石器出土状況

石器は碎片138点、剥片61点、石核2点、製品20点が出土した。第1文化層からは碎片45点、剥片21点、石鏃7点、石鏃未製品1点、スクレイパー1点が、第2文化層からは碎片29点、剥片5点、細石刃4点、細石刃核1点が、第3文化層からは碎片18点、剥片12点、石核1点、ナイフ形石器1点、台形石器1点、彫器1点が、第4文化層からは碎片11点、剥片7点が、第5文化層からは碎片2点、剥片2点、ナイフ形石器1点が、第6文化層からは碎片1点、剥片5点、台形様石器1点がそれぞれ出土する。

以下各文化層毎に具体的な出土状況を見ていく。

第1文化層

第1文化層 (II層) からは石鏃、石鏃未製品、スクレイパーが出土した。いずれも安山岩製であり、他の石材を素材に用いた製品はみられない。6つの文化層中で最も安山岩の出土が多い。

第2文化層

第2文化層 (III層) からは細石刃核、細石刃が出土した。いずれも漆黒色黒曜石製であり、他の石材を素材に用いた製品はみられない。

第3文化層

第3文化層 (IV-a層) からは百花台型台形石器^①が出土した。出土点数はF-5グリッドからの1点のみで、前回調査分とあわせても出土範囲は3m四方におさまる。その台形石器とほぼ同レベルでナイフ形石器、彫器が出土している。またG-4・5グリッドにかけてやや大きめの角礫が2点出土している。

第4文化層

第4文化層 (IV-b層) からは定型石器の出土はないが、C-1・2、G-1・2グリッドより安山岩を主な石材とする剥片・碎片が出土した。

第5文化層

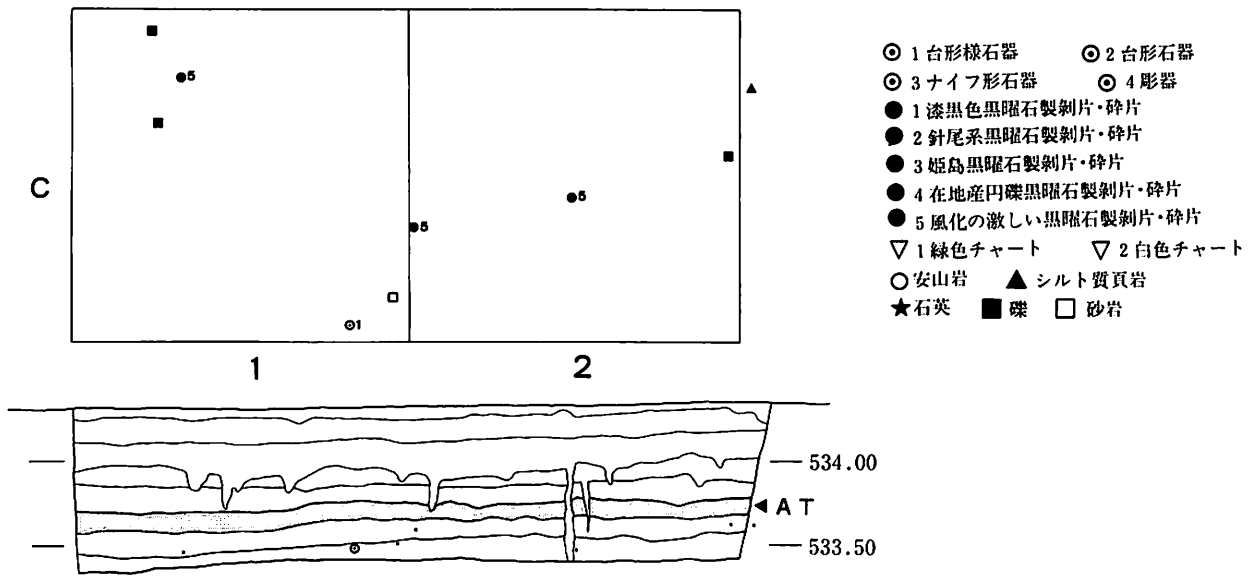
第5文化層 (V-a層) からは、K-1グリッドにおいて層の堆積状況を確認するために深掘りをおこなった2×0.5mの範囲内よりナイフ形石器が単独で出土した。しかし調査面積が狭く、出土点数が少ないためこの文化層の内容は今のところはっきりしない。

第6文化層

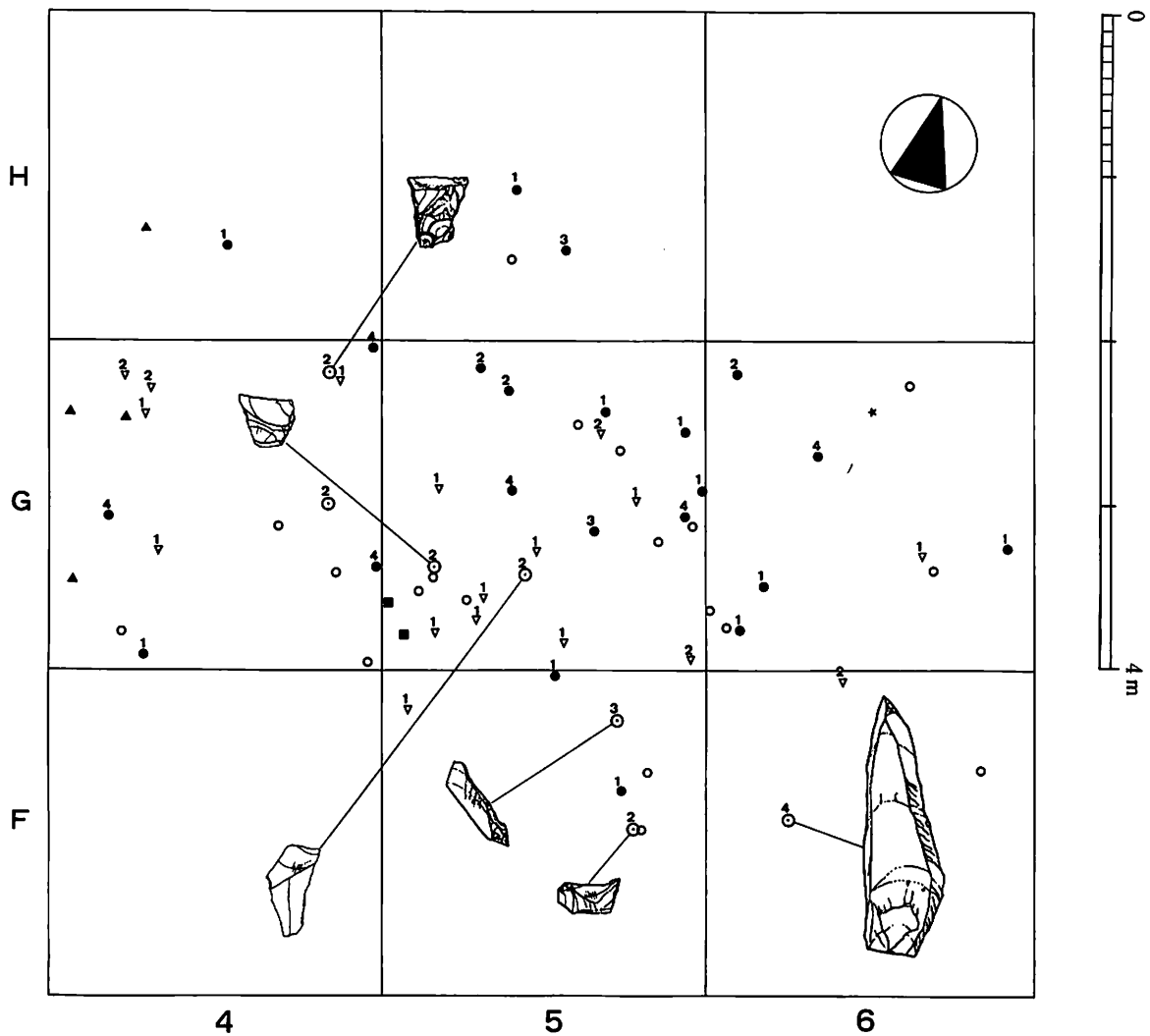
第6文化層 (VII-a, VII-b層) からはC-1グリッドより台形様石器を出土する。この台形様石器は漆黒色黒曜石製であるが、伴出する剥片は風化の激しい黒曜石・シルト質頁岩・砂岩製である。

各グリッドにおける遺物の出土状況、および掘り下げ状況は第3表に記すとおりである。

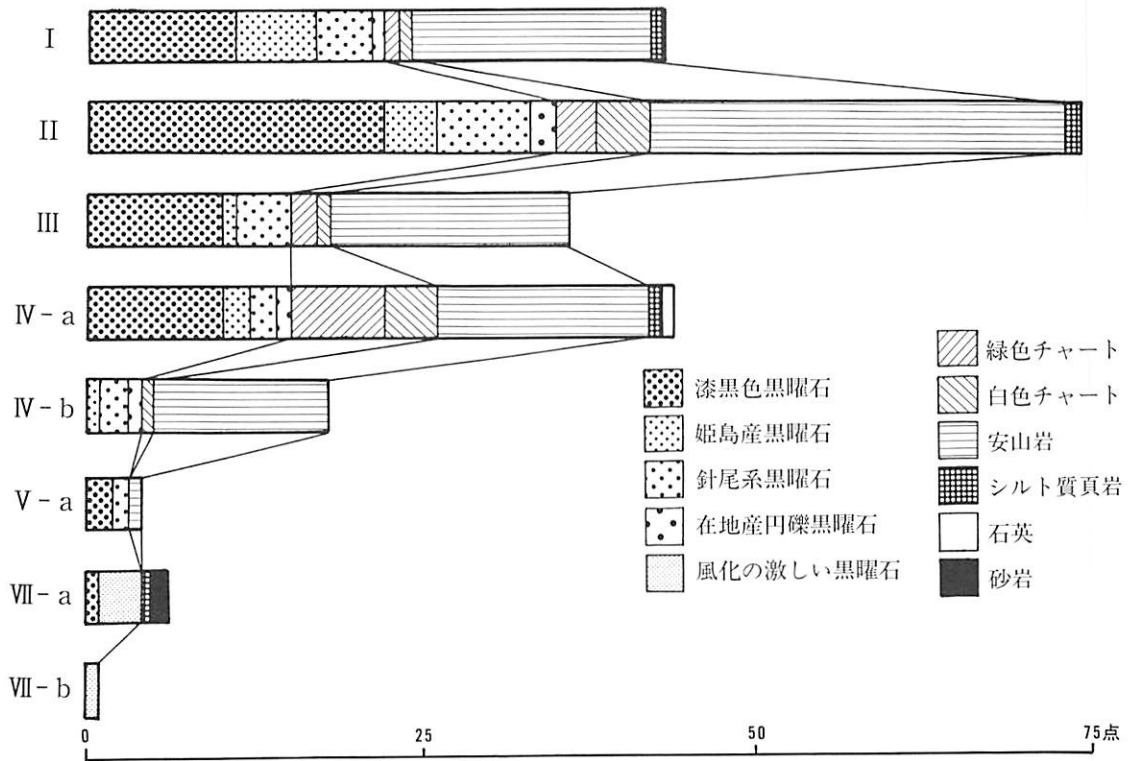
註(1) 前回の報告では、出土した台形石器を百花台型台形石器との素材の用いかたなどの違いにより百花台型台形石器類似資料としているが、今回はそれを石材の違いによる地域的変異として百花台型台形石器と捉える。



第6図 C-1・2グリッドVII層遺物出土状況図



第7図 F-5・6、G-4~6、H-4・5グリッドIV-a層遺物出土状況図
(前回調査の出土遺物も含む)



第2表 各層石材構成表

	C-1	C-2	C-8	C-9	C-10	D-10	F-5	F-6
I層			剥片2 碎片12 土器8	剥片2 碎片8 土器4	剥片1 碎片4 土器1	土器2		
II層 (第1文化層)			碎片6 土器2	碎片1 石鏃1	剥片9 土器8 石鏃2 スクレイパー1	剥片2 碎片1 土器3	剥片4 碎片6 土器3	碎片4
III層 (第2文化層)			未掘				剥片1 碎片5	碎片5 細石刃1
IV-a層 (第3文化層)		碎片1 石鏃1					剥片2 碎片2 台形石器1 ナイフ形石器1	碎片2 彫器1
IV-b層 (第4文化層)		剥片6 碎片11 土器1						
V-a層 (第5文化層)	碎片1	剥片1 碎片1						
V-b層								
VI層								
VII-a層 (第6文化層)	台形様石器1 剥片2	剥片1 碎片1						
VII-b層 (第6文化層)		剥片1						

	G-1	G-2	G-4	G-5	G-6	H-4	H-5	J-1	K-1			
I層					碎片1	剥片1 碎片1	剥片2 石鏃1 碎片6		剥片1 土器1			
II層 (第1文化層)					土器1 石鏃1	碎片9 石鏃2	剥片1	土器2 細石刃1	剥片5 土器7 石鏃1 石鏃未製品1			
III層 (第2文化層)			剥片1 細石刃核1		剥片3 土器1	碎片12 細石刃2	剥片1	剥片6				
IV-a層 (第3文化層)		剥片2	剥片3 土器1	碎片2	剥片3 碎片6	剥片1 碎片1	剥片1 碎片1	剥片3				
IVのb層 (第4文化層)		剥片1	未掘									
V-a層 (第5文化層)		剥片1										ナイフ形石器1
V-b層												
VI層												
VII-a層 (第6文化層)												
VII-b層 (第6文化層)												

第3表 各グリッド掘り下げ深度および遺物出土状況表

三 出土遺物

1. 土器 (第8図 第4表 図版3中)

1・20・25がI層、2・5・10・14~16・19・24がII層(第1文化層)から出土した。3・4・6~9・11~13・17・18・21~23・26は採集品である。

押型文土器(1~8) 1~4は山形押型文、5~8は楕円押型文である。1は外面に山形文を斜走させる。2は外面と内面上部に山形文を横走させる。内面と外面の文様は異なる施文具で施文される。3はやや角度のある山形文を縦位に施す。4は丸みを帯びた山形文を横走させる。7は外面に3~4mmの粒の小さな楕円文を縦走させ、内面上部に外面と同様の施文具による楕円文を横走させる。内面は表面の剝離が著しい。5・6・8は6~10mmの粗大な楕円文を施文する。8は楕円の隆起が少ない。5は文様施文のあとに下半部をナデ消している。6は文様施文後に中央をナデ消している。5と6の土器は施文方法において類似する。

塞ノ神式土器(9~19・24) 9~14・17・18・24は3~5本単位の凹線を縦横に施文する。11・14・17はやや間隔を置いて横位の凹線文のみを施す。いずれの外面にも煤が付着する。9・10・15は横位に4、5本単位の凹線文を施した後に、縦位に同様の凹線文を施す。10には斜位にも一条の凹線がみられる。24は復元直径21.6cmの底部片である。平底の底部から、一度底部近くで内側へ屈曲し、ほぼ直線的に外側へ開く器形をとる。凹線は横位と縦位に施文する。12は凹線文の屈曲部にあたる。13は4本単位の凹線文を、間隔を置かずの一部文様を重複させながら横位に施文する。15は横位の沈線の上下に棒状工具による刺突を連続して施す。16・19は先端の割れた工具による刺突を2段にわたり施す。19は口縁部片である。口唇部は平滑にし、刻み目をいれる。内面には横位の条痕を残す。16は器壁6mmと薄い。どちらも焼成が悪く、もろい。胎土、焼成より9・24、および11・14・18はそれぞれ同一個体と思われる。

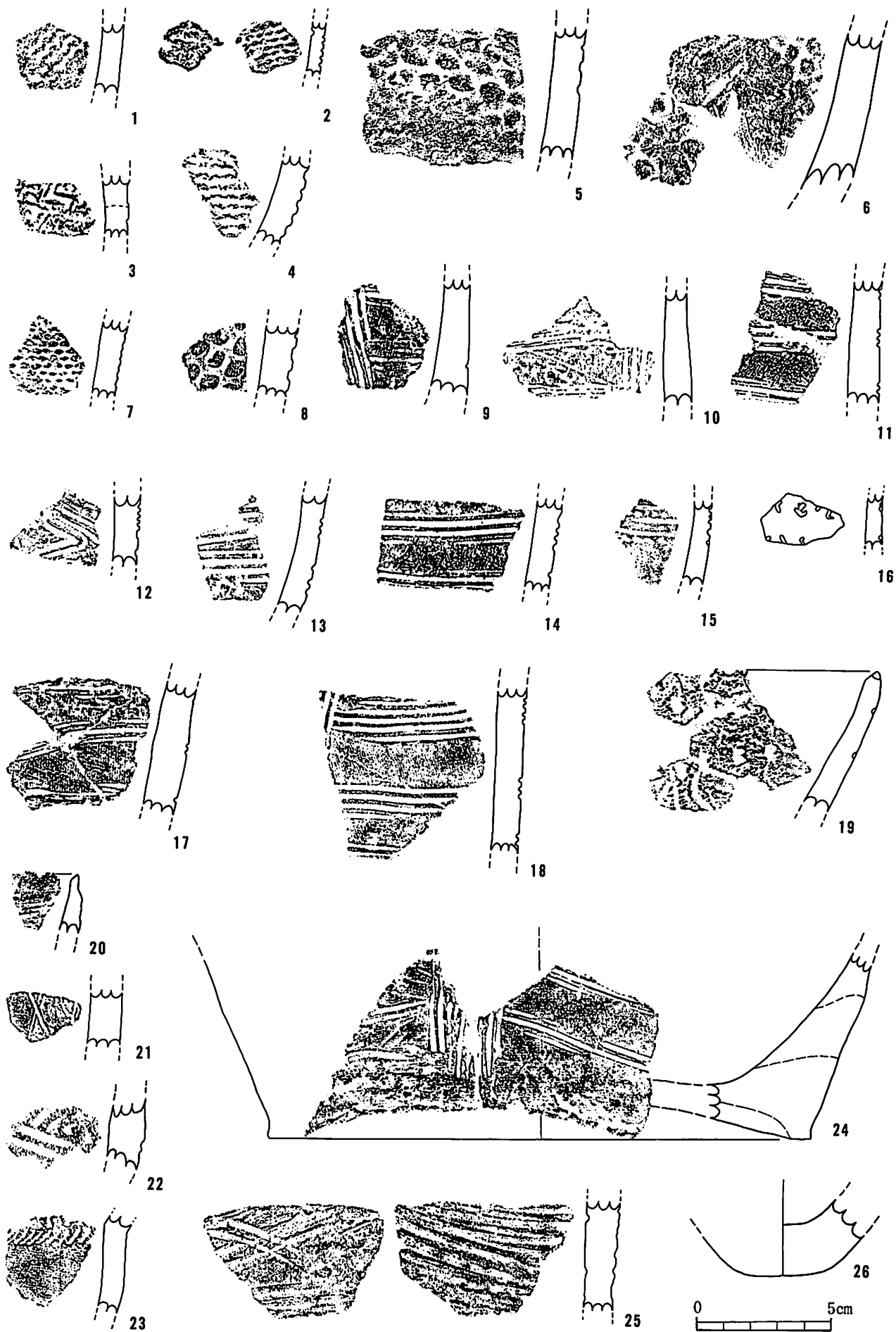
条痕文土器(25) 内外面ともに同様の条痕を残す。外面の条痕は横位に全面に施されるが、内面の条痕はやや不規則にはいる。外面には煤が付着する。

20~23・26は型式不明の土器である。20は口縁直下に微隆起線文を入れる。口唇部は平滑に作り上げ、刻み目を入れる。内外面ともに条痕を残す。21は外面ナデ調整の後、一条の沈線を交差させる。内面には条痕が残る。22は幅広の凹線を斜位に交差させる。内外面ともにローリングが激しい。23は屈曲部に稜を有しながら外に開く器形をとる。外面の屈曲部には、撚糸による施文がみられる。器壁は8mmとやや薄い。26は丸底状の底部片である。文様は確認できなかったが、押型文土器の底部になるかと思われる。

2. 石器 (第9・10図 第5表 図版3下)

28がI層、25~27・30・31がII層(第1文化層)、18~21・24がIII層(第2文化層)、12・14~17がIV-a層(第3文化層)、7・8がIV-b層(第4文化層)、6がV-a層(第5文化層)、1~4がVII-a層(第6文化層)から出土した。5・9~11・13・22・23・29・32は採集品である。

台形様石器(1) わずかに不純物の混じる黒曜石の横長剝片を素材とする。左側縁を折り取った後に腹面側から急角度の調整が入る。右側縁には打面を残しそこから背面側に平坦剝離を



第 8 图 出土・採集土器実測図

施す。基部には調整は及ばない。

ナイフ形石器（6・12）6は黒曜石の横長剥片を素材とする。左側縁の全域および右側縁の基部にかけて、腹面から急角度のブランディング調整が入る2側辺加工のナイフである。左側縁の頭部の調整はやや緩角度になる。刃部には微細剥離が見られる。12は緑色チャートを素材とし、基部のみを残す。調整は左側縁にのみ腹、背両面より急角度のブランディング調整が入る。

石核（7）表裏両面とも周縁より求心状に加撃し、不定形の剥片を得る。ヒンジフラクチャーが激しく剥片の剥ぎ取りが困難であったことを示している。

彫器（16）安山岩の縦長剥片を用い、素材剥片の形態を大きく崩さない。右側縁頭部に槌状剥離を施すが、微細剥離がみられるのは右側縁の中位のみで、槌状剥離面には肉眼では観察されなかった。

台形石器（5・13・14）5は安山岩製の不定形剥片を横位に用いる。左側縁全体に急斜角度の調整を腹面側から入れる。右側縁には背腹両面より調整が入るが打面部は大きく残す。刃部には2枚の剥離がみられる。下端部には調整は及ばない。13は漆黒色黒曜石製の台形石器で、上半部を欠損する。素材剥片の頭部と端部を折り取った後、腹面右側に平坦剥離を施し、両側縁に腹面からブランディング調整が入る。調整は下端部には及ばない。14は緑色チャートを用いる。下半部を欠損する。おそらく縦長剥片を素材に用いたと思われる。左側縁は背面側に平坦剥離を施した後にブランディング調整がはいり、右側縁は折り取りを行った後にブランディング調整を行う。これらの調整により素材剥片の打面と端部を除去する。

細石刃（18～21）いずれも漆黒色の黒曜石を素材とする。19・20は下半部を折り取り、18は頭部と端部を折り取る。21は寸詰まりでやや幅広となる。18・19に微細剥離がみられる。

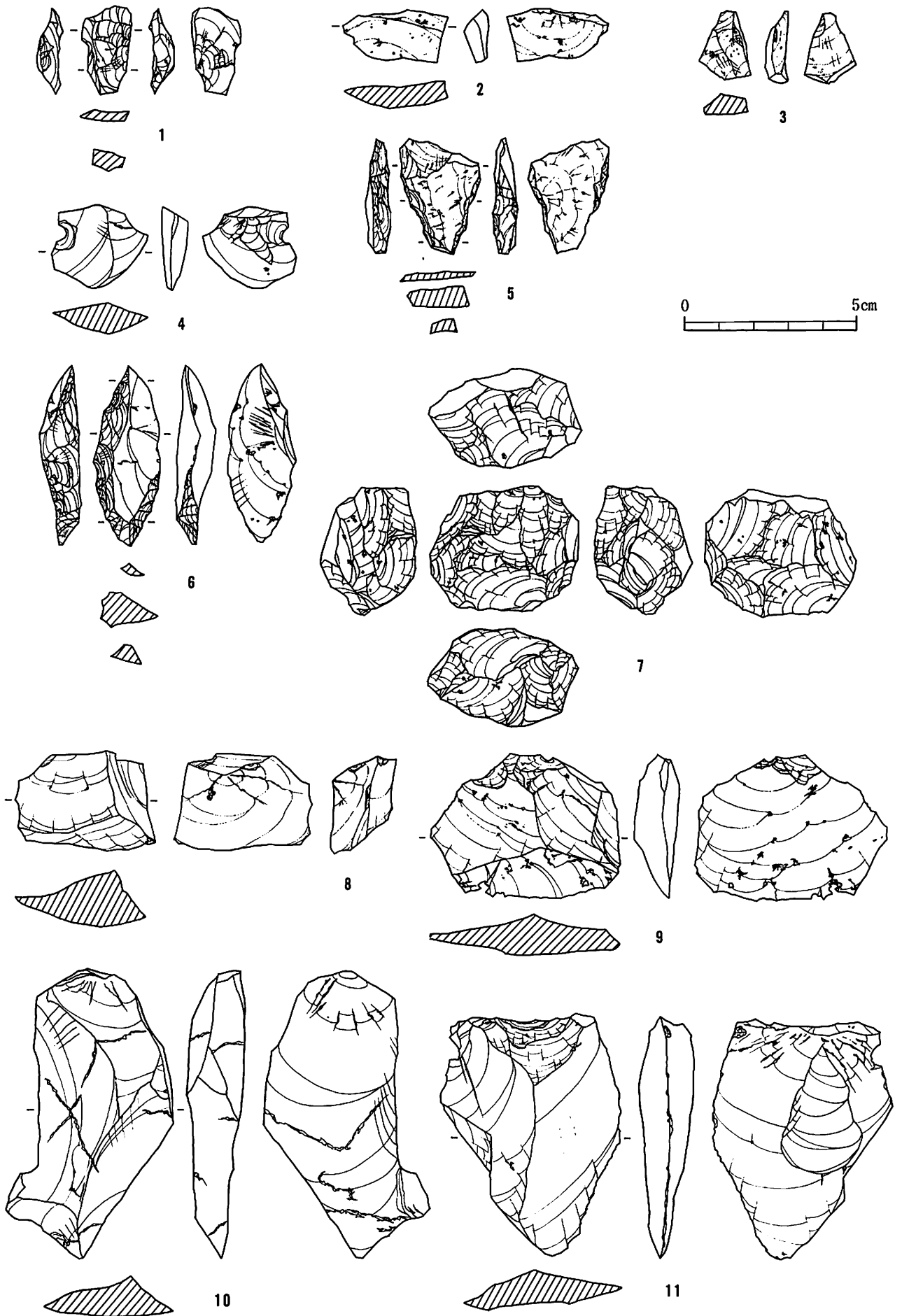
細石刃核（24）漆黒色の黒曜石を素材にする。打面は固定されず、一度細石刃作出をおこなった後打面を転位し、そこからさらに細石刃作出をおこなう。

石鏃（25～29）いずれも安山岩製で、大きな剥離面を残す。25は脚部を残し、ほかを欠損する。腹面側には研磨痕がみられる。27はほかのものに比べ風化の度合いが弱い。側辺が緩やかに内湾し、全体的に丸みを帯びる。29は風化が激しい。

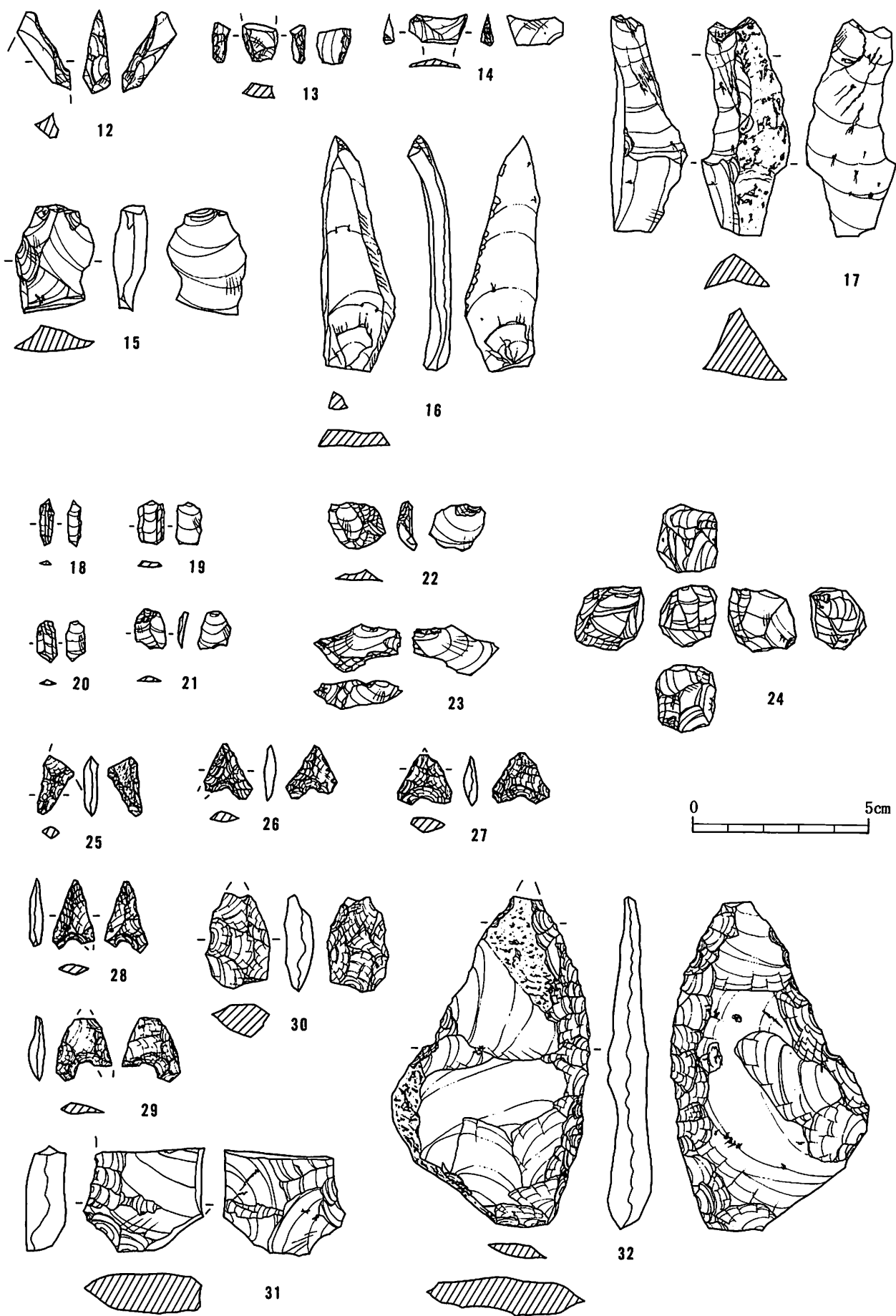
石鏃未製品（30）気泡の多く入る安山岩を素材とする。先端部の欠損は新しい。ヒンジフラクチャーが著しく、剥片の厚みを減じられなくなったため廃棄されたものと思われる。

スクレイパー（31・32）31は白色チャートを素材とする。左側縁に平坦剥離による刃部作出を行い、下端部に急角度のブランディング様の調整が入る。32は幅広の安山岩製剥片を用いる。背腹両面から右側縁全体に平坦剥離を施し、刃部を形成する。頂部および左側縁下半部から下端部にかけて原礫面を残す。左側縁上半部には微細剥離がみられる。

剥片（2～4・8～11・15・17・22・23）2～4・8・15は不定形剥片であり、石材はそれぞれ2・3が風化の著しい黒曜石、4がシルト質頁岩、8が安山岩、15が白色チャートである。2は左側縁部を、3は頭部、両側縁をそれぞれ折り取っている。4の左側縁の欠損は新しい。17は針尾系黒曜石製の縦長剥片であり、背面に原礫面を大きく残す。9は上端部の腹、背両面に数回の平坦剥離がみられる安山岩製剥片である。右側縁を欠損する。11には右側縁全体にかけて微細剥離がみられ、左側縁にも一部みられる。安山岩製剥片である。22・23は細石刃核調整剥片で、いずれも漆黒色黒曜石製である。



第9图 出土·采集石器实测图(1)



第10图 出土·采集石器实测图(2)

No.	文様および調整 (上:内面 下:外面)	焼成	混和 材	色調 (上:内面 下:外面)	Gr	層	No.	文様および調整 (上:内面 下:外面)	焼成	混和 材	色調 (上:内面 下:外面)	Gr	層
1	山形押型文 粗いナデ	良	雲母 長石	橙色 にぶい黄橙色	C-8	I	14	ナデ/横位凹線文	良	雲母 長石	黒褐色 にぶい黄褐色	D-10	II
2	山形押型文 山形押型文	良	雲母 長石	暗褐色	C-8	II	15	横位凹線文/連点文 ナデ	やや良	雲母 長石	褐色	G-6	II
3	山形押型文 ナデ	良	雲母	橙色 にぶい黄褐色	採集	—	16	刺突文	不良	雲母 長石	赤黒色	C-10	II
4	山形押型文 ナデ	良	長石	橙色 にぶい黄橙色	採集	—	17	ナデ/横位凹線文 粗いナデ	良	長石	橙色 にぶい橙色	採集	—
5	楕円押型文/ナデ ナデ	良	雲母 長石	橙色 にぶい黄橙色	K-1	II	18	ナデ/横位・縦位凹線文 粗いナデ	良	雲母 長石	にぶい橙色 褐色	採集	—
6	楕円押型文/ナデ ナデ	良	雲母 長石	にぶい褐色	採集	—	19	刺突文 条痕(口唇刻目)	不良	長石	灰黄褐色 褐色	C-10	II
7	楕円押型文 ナデ/楕円押型文	良	雲母 長石	赤褐色	採集	—	20	条痕/微隆起線文 条痕	良	雲母 長石	黒褐色 にぶい黄褐色	C-8	I
8	楕円押型文 ナデ	良	雲母	にぶい黄褐色	採集	—	21	ナデ/沈線文 条痕	良	雲母 長石	暗赤褐色 黒褐色	採集	—
9	横位・縦位凹線文 粗いナデ	良	長石	赤灰色 にぶい褐色	採集	—	22	斜位凹線文	良	雲母	黒褐色 にぶい黄褐色	採集	—
10	ナデ/縦位・横位凹線文 粗いナデ	良	雲母 長石	にぶい褐色 明褐色	C-10	II	23	ナデ/捺赤文 ナデ	良	長石	にぶい黄褐色 灰黄褐色	採集	—
11	ナデ/横位凹線文 粗いナデ	良	長石	にぶい黄褐色 褐色	採集	—	24	ナデ/横位・縦位凹線文 粗いナデ	良	雲母 長石	褐色 にぶい黄褐色	D-10	II
12	屈曲凹線文 ナデ	良	雲母 長石	にぶい黄褐色 褐灰色	採集	—	25	条痕 条痕	やや良	雲母 長石	黒褐色	D-10	I
13	横位凹線文 ナデ	良	長石	にぶい褐色 にぶい赤褐色	採集	—	26	ケズリ	良	長石	暗灰黄色 にぶい赤褐色	採集	—

第4表 出土・採集土器観察表

No.	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	Gr	層	備考
1	台形椀石器	12.8	24.3	5.5	1.7	A	C-1	VIIa	
2	剝片	15.5	28.3	6.5	3	C	G-1	VIIa	
3	剝片	18.9	15.2	5.7	1.5	C	C-1	VIIa	
4	剝片	22.7	25.2	5.7	3.1	D	C-3	VIIa	
5	台形石器	29.2	23	5.3	4.2	E	表採	—	
6	ナイフ形石器	18.6	51.3	10.2	7.1	A	K-1	Va	
7	石核	33.8	42.6	26.5	43.6	E	C-2	IVb	
8	剝片	37.2	39	18.5	14.2	E	C-2	IVb	
9	剝片	42.1	54.4	9.8	21	E	表採	—	IV-a層相当
10	剝片	80.1	40.4	13.5	43	F	表採	—	IV-a層相当
11	剝片	42.1	55.3	10.5	21	E	表採	—	IV-a層相当
12	ナイフ形石器	24.8	6.9	7.6	1	G	F-5	IVa	
13	台形石器	10.5	9.2	3.9	0.4	A	表採	—	
14	台形石器	15.8	7.9	0.9	0.1	G	F-5	IVa	
15	剝片	29.4	21.3	8.6	4.3	F	G-4	IVa	
16	彫器	63.2	19.9	5.4	9.4	E	F-6	IVa	
17	剝片	59.7	24.8	17.9	16	B	G-2	IVa	
18	細石刃	12.5	3.5	1.1	<0.1	A	G-6	III	
19	細石刃	11.7	6.7	0.9	0.1	A	J-1	III	
20	細石刃	10.6	4.9	1	<0.1	A	F-6	III	
21	細石刃	11.3	9	1.1	0.1	A	G-6	III	
22	剝片	12.8	10.4	4	0.7	A	表採	—	
23	剝片	10.8	23.5	5.8	1.1	A	表採	—	III層相当
24	細石刃核	14.9	13.1	17.3	4.9	A	G-4	III	
25	石鏃	15.5	8	3.5	0.4	E	C-10	II	
26	石鏃	14.1	13.5	2.8	0.3	E	C-9	II	
27	石鏃	13.5	15.4	4.1	0.7	E	J-1	II	
28	石鏃	19.6	11.9	3.2	0.5	E	H-5	I	
29	石鏃	17.4	15.1	3.4	0.6	E	表採	—	
30	石鏃未製品	26.2	16.4	8.4	3.3	E	J-1	II	
31	スクレイパー	25.9	33	9.6	12.2	F	C-10	II	
32	スクレイパー	91.4	53	9.2	49	E	表採	—	II層相当

第5表 出土・採集石器観察表

- 石材：A 漆黒色黒曜石
 B 針尾糸黒曜石
 C 風化の激しい黒曜石
 D シルト質頁岩
 E 安山岩
 F 白色チャート
 G 緑色チャート

四 まとめ

今回は、第1次調査で西原周辺では初めて出土した百花台型台形石器を面的に把握すると同時に、AT上位の各文化層についてその枚数、広がりをつまえること、さらにAT下位における文化層を確認することを目的として調査をおこなった。

調査目的

今回新たにV-a層(第5文化層)より二側刃加工のナイフ形石器、VII-a層(第6文化層)より横長剥片素材の台形様石器が出土し、第1次調査の成果とあわせて合計6枚の文化層を確認することができた⁽¹⁾。しかしIII~V層にかけてはクラックの発達が著しく、遺物の共伴関係を捉えることが困難な状況にあり、IV-a層の第3文化層は上層の台形石器群、下層のナイフ形石器群の2つに分離できる可能性を、またIV-b層の第4文化層とV-a層の第5文化層は1つの文化層にまとまる可能性を残している。

文化層の分離・統合

第1文化層(II層)では縄文時代早期の押型文土器・塞ノ神式土器が出土している。1時期の土器個体数は少なく、遺構の検出もない。この時期においても旧石器時代同様に小規模なキャンプ的性格を有していたのであろう。

縄文時代早期土器

第3文化層(IV-a層)より出土した台形石器は、緑色チャートを素材とした小型のものであり、前回出土の百花台型の範疇で捉えることができる。出土する遺物は碎片・小剥片が多いが、非常に散漫な出土状況である。台形石器の出土点数は1点のみであり、第1次調査出土分をあわせてもG-4・5グリッドを中心とした3m四方にまとまり、石器群の範囲はこれ以上広がらない。

台形石器

今回最も注目されるのは、第6文化層(VII-a層)より出土した台形様石器の存在であろう。九州で同時期の台形様石器を出土する遺跡として熊本県曲野遺跡、同県血毛ヶ峯遺跡、鹿児島県前山遺跡など7遺跡があげられる。当遺跡のものは漆黒色黒曜石製の幅広の剥片を素材とし、側縁には打面を残し、ブランディングがあまりはいらぬという古拙な様相を呈す。伴出する剥片・碎片は風化の激しい黒曜石・シルト質頁岩で、在地産のものが主体を占める(第6図)。台形様石器の素材に使われる漆黒色黒曜石の剥片・碎片が出土していないのは、この石器がほかから搬入されたものであることを示しているのかもしれない。またAT下位の剥片・碎片は、在地産安山岩・チャートを主体に遠隔地産黒曜石を伴出するAT上位の様相とは異なることが指摘できる。

AT下位の台形様石器

石材構成

今回の調査で九州において数少ない台形様石器の出土をみたことは、大きな成果であったといえる。しかし調査面積が非常に狭く、出土点数のきわめて少ない現状ではその理解も制約されてしまう。今後調査面積が広がるにつれ、各石器群の把握もなされていくであろう。

註(1) 大分県文化課綿貫俊一氏より前回剥片として報告した資料中に今峠型ナイフが存在するとの指摘を受けた。今後そういったナイフ形石器の存在も考慮に入れる必要がある。

報 告 書 抄 録

ふりがな	にしはらえふいせき							
書 名	西原 F 遺跡 2							
シリーズ名	考古学研究室報告							
シリーズ号	33							
編集者名	藤本圭司							
編集機関	熊本大学文学部考古学研究室							
所在地	〒860-0862 熊本県熊本市黒髪2-40-1 TEL. FAX096-342-2324							
発行年月日	1998年 3 月 3 日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしはらえふ 西原 F 遺跡	熊本県 阿蘇郡 西原村 河原字大野 4332-2	43432	7-14	32° 47' 32"	131° 15' 6"	19970807) 19970812	54m ²	学術調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な包含層	主な遺物		特 記 事 項		
西原 F 遺跡	散布地	旧石器時代) 縄文時代	遺物包含層	細石刃 台形石器 ナイフ形石器 台形様石器 押型文土器 塞ノ神式土器				